	奈良県 地域振興部長	生駒市 開発部長	独立行政法人都市再生機構 関西文化学術研究都市事業本部事業部長
供覧			

第１回学研高山地区第２工区まちづくり検討協議会概要

・開催日時：平成２２年４月２６日(月)15:30～17:00
・開催場所：猿沢荘　１Ｆ　おおみや
・出席者：
　奈良県　　：窪田副知事　影山地域振興部長
　　川﨑土木部長　上田まちづくり推進局長
　生駒市　　：吉岡開発部長　坂本開発部顧問
　都市再生機構：福田本部長、中川事業部長
　有識者　　：慶應義塾大学院政策・メディア研究科 池田靖史 教授

①　議事
１．「学研高山地区第２工区まちづくり検討協議会設置要綱(案)」について
　→案(資料１)のとおり、了承
２．高山地区第２工区まちづくり検討協議会の進め方について
　→資料２～４にて説明
　・事業のリスク対象額について、有識者の意見を伺うべき。（ＵＲからの意見)
　・今後の検討については出来る限り職員の手で行うべき。(生駒市からの意見)
　・１年間の進め方については、了承。今後も継続的に意見を伺う。

②　慶應義塾大学院政策・メディア研究科 池田靖史 教授による講演
　・東北公益文科大学酒田キャンパス、鶴岡キャンパス、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにおける、大学を中心としたまちづくりについて講演。
　・大学の中だけで完結するのでなく、海外の大学を参考にして、キャンパス内にできるだけ市民が入ってこられるような、キャンパスタウンのコンセプトを進めてきた。既存の施設を利用して、機能連携を図った。
　・大学とその周辺のまちを一体化していくというコンセプトについては、運営とハード整備の両方からの検討が必要。

③　意見交換の概要
　・１０年先に開発完了されるところに、今時点で、大学が進出を決めるのは難しいかもしれない。但し、全てのことが一度にできるものでは無い。段階的に開発を進めるためのプロセス・プランニングが必要なのではないか。
　・大学が来る前にどのような魅力を準備できるかが重要なのではないか。大学側が立地するかどうかを判断する際に、良い駒が揃っているという素地づくりが必要と考えられる。
　・大学にとって魅力となりうるのは、住むところとの関係と既に立地している機関との関係である。その意味で、高山地区はどちらの面からも魅力的である。
　・大学誘致に関して、「学研都市の中の高山地区」との位置づけが重要。学研都市の既存の教育機関（先端大学など）や研究機関との連携により、連鎖的に新たな大学や産業の誘致が期待できるのではないかと思う。
　・新たな産業の定着により、住宅都市を持続可能都市とすることにより、公共団体の行財政問題に貢献できるものと思う。
　・大規模な造成よりも、自然地形を活かした方がコスト的に有利で、周辺配慮にもつながる。また、２８８ｈａ全体を一度に開発するのでは無く、段階的な整備もリスク軽減策としての検討事項の１つである。

以上